

すでに用意された世界

大谷派の学僧清沢満之（1863 ~ 1903）師は自著『絶対他力の大道』の中で次のようなことを仰っています。

.....請う勿れ、求むる勿れ。汝、何の不足あるか。若し不足ありと思わば、是れ汝の不信あらずや。如来は汝がために必要なものを、汝に賦与したるにあらずや.....

意識すれば、

「何をあなたは請求してるんですか。何の不足があるんですか。もし不足があると思うのならそれはあなたの不信ではないですか。如来はあなたに必要なものはすでに与えているはずですよ」ということです。

簡潔に言えば、

「あなたに必要なものは全部与えられているじゃないですか。だから、それを喜んで頂いていけばいいんですよ」ということになります。

まさにその通りだと思います。

私たちのこの世界では、私が生きるに必要なものはすべて与えられています。

空気にしろ水にしろ太陽にしろ、私にとって生きるに必要なものは、すでに用意されています。しかもそれらは私を生かそうとする「ハタラキ」を自然に備えています。

その「ハタラキ」は、人間の力を超えたものです。ですからそれを仮に、「仏（法身仏）」と称しているのです。

つまり、私たちは、仏（法身仏 = いのちを生かす根源のハタラキ）の世界の中で、生かされて生きているということになります。

これを昔の人は「仏のふところ住まい」と味わっておられたのです。

文字通り宇宙万有すべてのものが生きるに必要なものとして仏さまから与えられたものだと言いでいかれたのです。

念仏者であり詩人でもあられた榎本栄一（1903 ~ 1998）さんは「生まれたら」と題した次のような詩を残されています。

「生まれたら」
いのちが 一つうまれたら
そこには もう空気があって
日の光があって
水があって

（『常照我』樹心社）

この詩は、清沢満之師の言葉を具体的に表現した詩だと思えます。

まさに私たちは生きられるように用意された世界で生かされて生きているのです。
この「すでに用意された世界」を、浄土真宗では「大悲の世界」と申すのです。

平成24年5月 「光明寺だより77号」より